ちょっと知りたい 医学の豆知識

～かぜ（普通感冒）について～

呼吸器内科医師　坂本　匡一

かぜ（普通感冒）は倦怠感、微熱などと共に咽頭痛、鼻閉、鼻汁、咳などを症状とする病気で、ウィルスによって引き起こされる上気道感染症です。原因となるウィルスはライノウィルス、コロナウィルス（新型ではない）、RSウィルスなどで200種類くらいあると言われ、ウィルスによって流行しやすい季節があります。例えばライノウィルスは春と秋、コロナウィルス、インフルエンザウィルスは冬に流行します。症状は軽度で持続期間も長くはありません。咽頭症状、鼻症状の後、咳が出てくるという経過で、発症後2-3日で症状のピークを迎え咳は長引くことはありますが、大体1-2週間前後で軽快していきます。基礎疾患のない方は以上のような経過ですが、例えば気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など呼吸器系の病気を持っている方は、感冒を契機に症状が悪化することがありますので注意が必要です。

治療ですが、かぜの原因ウィルスに対する抗ウィルス薬は存在しませんので治療薬はありません。かぜのときに抗生剤の処方を希望される方がいますが、細菌にのみ有効である抗生剤はウィルスには全く効果がありません。抗ヒスタミン薬、鎮痛解熱剤、鎮咳去痰剤の成分を含む市販の総合感冒薬はあくまで対症療法ですので、服用したからといってかぜが早く治るわけではありません。また病院で処方される薬剤も同様です。

咽頭痛、鼻汁、鼻閉、咳嗽、発熱などの症状の強さが同程度で発症、数日で軽快していく場合は心配いりませんが、経過が長い、症状が悪化する、他の症状がでる、などの時はかぜではなく他の病気の可能性が考えられます。例えば咽頭痛や咳はなく鼻閉、膿性鼻汁、顔面痛などの症状があるときは副鼻腔炎が考えられます。咳がなく38℃以上の発熱、頸部リンパ節腫脹、扁桃腺に白苔が付着しているときは溶連菌感染の可能性が高く抗生剤の服用が有効です。咽頭痛が非常に強い、口が開きにくい、喘鳴があるなどの時は扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎など緊急性が高い病気です。咳の症状が強い場合は急性気管支炎を考えます。90%くらいはウィルスが原因ですが、マイコプラズマ、クラミジア、百日咳が原因の場合は抗生剤が有効です。他にもかぜと間違えやすい病気がありますので、かぜかと思っても普段と異なる症状があるときは医療機関を受診し具体的に症状を医師に伝えるとよいでしょう。